

真宗大谷派 本明寺通信

創刊号

2006年5月17日発行

明 — みょう —

【明】（めい）

- ① あかるいこと。はっきり見えること。
- ② 理のあきらかでないこと。また、事理を弁別する知力。
- ③ あきらかにすること。はっきりさせること。
- ④ 夜があけること。
- ⑤ 次の日・年。
- ⑥ この世。現実の世界。

【明】（みょう）

- ① （煩惱の闇を破るからいう）智慧（ちえ）
- ② 真言（しんごん）の別名。

（広辞苑参照）

本明寺通信

「明—みょう—」

創刊にあたって

四月に参加した研修会での先生のお話の中に「近年、お寺が閉鎖的になっている。お寺がマイホーム化しているのではないか？」ということを言われていました。また、葬儀や法事の席などで「お坊さんはいつも何しているの？」とよく聞かれます。（特に私のような若いお坊さんは… 笑）おそらく、お寺は葬儀や法事をする場所、お坊さんは葬儀や法事を執行する人だと思われているのだと思います。

私の場合、葬儀や法事など以外の活動は、東京教区（※1）の主催する講演会や、東京教区の児連（子ども会）などのスタッフをしたり、東京教区や組（そ）（※2）で開かれる学習会や研

修会に参加しています。また、お寺の仕事以外に、私の母校の高校に行ってバスケットボールを教えています。

このような自分自身の活動や、今自分自身を感じていること、疑問に思っていることを「明一みよう一」を通して知っていただき、親近感をもってお寺に足を運んでいただく機会を増やしてもらえたらと思っています。また、これから本明寺の行事のご案内やご報告などをしていきたいと思っています。

※1 東京教区

真宗大谷派教団は三十個の「教区」という地区に分かれています。東京教区は関東地方と長野県を入れた一都八県で成り立っています。

※2 組(そ)

東京教区は二十五個の組(そ)というグループに分かれています。

ちなみに本明寺は

真宗大谷派東京教区東京一組です。

明「一みよう一」の願い

お寺のイメージを

「明るく」したい

お寺というと、どうしてもお葬式というイメージが強く、ちよつと暗い感じがします。お葬式をすることには深い意味があり、とても大切なことです。しかし、本来お寺は「開法の道場」として開かれていった場があります。私たちみんなでお寺を共有し、創っていきたくと思っています。本明寺の行事報告を通してお寺のイメージを明るくして、お寺に足を運びやすくしていただきたいと思っています。

お寺の活動を

「明らか」にしたい

本明寺では永代経法要、報恩講法要を行っています。これからは、これら他にも行事を企画していきたいと思っています。より多くの方に参加していただくために、行事の内容や雰囲気伝えていきたいと思っています。



仏教の智慧(明)にふれてほしい

「仏教って難しい。解りづらい。」と思っている方が多くいらっしやると思います。今でも僕はそう思っています。

後の話になると思いますが、僕が講演で聞いた話や読んだ本の内容を通して、感じたこと、疑問に思ったことを文章にしていきたいと思います。その中で皆さんと一緒に考えていけたらいいなと思っています。

この3つの願いを込めて「明一みょう一」という題目にしました。

(小坊主 釋 彰一)

小坊主の気になる掲示板

命は大切だ。
命を大切に。
そんなこと、
何千何万回
言われるより、
「あなたが大切だ」
誰かが
そう言ってくれたら、
それだけで
生きていける。

公共広告機構

たとえ一生をつくしても
遇わねばならない
ひとりの人がいる
それは私自身

真宗大谷派
帰敬式ポスターより

時に人は傷付き、傷付けながら
染まる色はそれぞれ違うケド
自分だけの Story
作りながら生きてくの
だからずっと、ずっと
あきらめないで…

AI『Story』

小坊主の大まかな活動

雪かきボランティア

(二月十日〜十三日)

そのころのテレビでは昨年十二月から続いていた日本海側の豪雪災害のニュースで持ちきりでした。そのことについて東京六組因速寺の武田志勇君と話していました。「なぜお年寄りが雪かきで亡くなるのか?」「若い人は何をしているんだ!」という疑問を持ち、「いま、自分たちに出来ることはなにか?」ということを引きつかけに雪かきに行く事を決めました。

私たちは事前に役所に連絡をしてボランティアの募集の情報を求めました。そして新潟県南魚沼市塩沢町の社会福祉協議会でお世話になることになりました。しかし、現地に着き再度連絡を

取りましたが、県外からのボランティアは受けついでいないとの事でした。それは普通の災害ボランティアとは違い雪かきという危険が伴う作業だからです。すでに私たちは現地に着いたので、特別に作業を手伝わせてもらうことになりました。

作業の内容としては、雪で埋もれた玄関先の除雪や屋根の雪下ろし等をさせてもらいました。作業の中で雪かきという肉体労働の辛さ、除雪した雪を



どのようなにして片付けるかを考えたり、私たちが東京で思っていたよりも大変な作業でした。また、過疎化の影響や若い人は昼間の時間帯は仕事しているため、お年寄りが雪かきをしなくてはならないという現状があることがわかりました。

今回、現地の人の中には「お金を払ってでも雪かきをしてほしい」という声もありました。やはり多くの現地の人は雪かきが出来る人を求めています。私たちは塩沢町福祉協議会の方々の親切な指導により、雪かきのボランティアをさせていただきましたが、これからは様々ボランティアの研修を開いていただき、多くの方に参加していただき、幅広いボランティア活動が出来たらと思っています。

右の写真は武田志勇君です。志勇君の身長は187cm。だから、雪の高さは3m以上ありました。



『しゃばネット』二〇〇六年三月号
(東京教区教化委員会内)

同朋社会推進ネットワーク発行)

投稿記事より

帰敬式 (おかみそり)

(二月二十六日)

東京教区の報恩講の一環として、帰敬式が行われました。

帰敬式とは、真宗の教えを聞いていくことを誓う、生涯にただ一度の大切な儀式です。帰敬式を受式すると『法名』をいただきます。『法名』というと死後にいただく名前と思っておられるかとも多いかと思いますが、本当は「私は仏弟子として生きていきます」という決意の名前です。私たちがお念仏の道をあゆむ仏弟子として、聞法の生活を実践していくことを願い、帰敬式が開かれました。

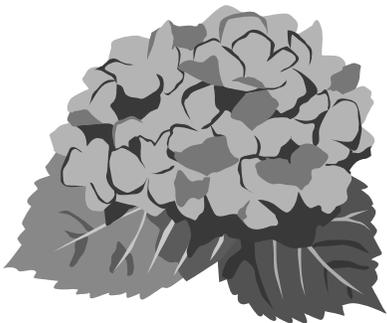
この帰敬式は各お寺でも開けるようになっていきます。いずれ本明寺でも帰敬式を開けたらと思っています。

伝道講習会 (四月四日～十一日)

伝道講習会には法話を実践することを願いとして行われる学習会です。群馬県の沢渡温泉にて七泊八日で行われました。

七日目に法話実習がありました。自分の思っていることを言葉にして人に伝えることの難しさを身にしみて感じました。

これから僕が法事などでお話する機会があると思いますが、どうか温かい気持ちで見守ってください。



青年研修会

(四月二十四日～二十五日)

東京教区青少年部門主催の研修会で「寺をひらく」というテーマで東京五組存明寺住職、酒井義一さんより講義いただきました。去年から本明寺通信発行やお寺でのいろいろな企画をしていきたいと思っていました。が、なかなか行動に移せませんでした。この研修会での酒井さんのお話をきっかけに一步踏み出すことが出来ました。

東京一組団参 (五月八日)

今回の団参は「親鸞聖人の関東ご旧跡と益子焼バスの旅」でした。

親鸞聖人は、1214(建保二)年四十二歳ごろに、流罪に処せられた越後の国(現在の新潟県全域)から常陸の国(ひたちのくに―現在の茨城県)に移

られ、その後約二十年の間、本願念仏の教え(「どんな人でも念仏をして阿弥陀仏によって救われていく道がある」と言う教え)を縁ある人々に伝えていかれました。その教えは関東から東北にかけてひろまり、各地に念仏の教えに生きる者が生まれていきました。ですから、関東にも親鸞聖人のご旧跡が多く残っています。今回の団参で訪ねたご旧跡は、真宗高田派の専修寺と浄土真宗本願寺派の大覚寺に参詣しました。

本明寺からは住職、小坊主、若井武久さんが参加しました。今後も団参は行われます。いつになるかは分かりませんが、興味がある方はお申し出ください。決まり次第ご連絡させていただきます。



右の写真は専修寺の御影堂です。

親鸞聖人の等身の御影をおまつりしているお堂です。昭和六十年からの大修理によって、もとの茅葺屋根の形に復元されました。その時に、寛保三年(1743)の墨書きが発見されて、そのころの建築とわかりました。

お寺の予定

報恩講法要

十月二十九日(日)

報恩講は親鸞聖人のご命日(十一月二十八日)をご縁として、真宗の教えを明らかにしてください。聖人の恩徳に感謝し報いるための、一年でもっとも大切な法要です。本明寺では本山(東本願寺)の報恩講にも参加していただけるように、この時期に行います。



おみがき奉仕のつどい

十月中旬頃

お寺をみんなで共有し、大切にしていきたいという願いで企画しました。ご自宅のお内仏の仏具も持ち寄って、一緒におみがきをしましょう。報恩講のご案内と一緒にご連絡します。

東京教区の予定

東京教区同朋大会

六月三日(土)

会場 日比谷公会堂

(東京都千代田区日比谷公園1-3)

講演 広瀬 杲 氏

(大谷大学名誉教授)

テーマ 凡夫(ただひと)を生きる

—いま、真実(ほんとう)の

願いに立つ—

参加費 1,000円

日程 10:30 整理券発行

12:00 開場

12:45 開会

13:15 教区教化テーマポス

ターに寄せる願い

14:00 記念講演

15:30 閉会

多少のチケットをお寺でも用意して
います。お問い合わせください。
小坊主も場外のスタッフとしていま
す。

湾岸親鸞講座

⑥六月十七日(土)

時間 14:00～16:00

会場 江東区文化センター

(東京都江東区東陽4-11-3)

講師 木越 康 氏

(大谷大学助教授)

テーマ 『歎異抄』の世界に学ぶ

参加費 1,000円

小坊主もスタッフとして参加してい
ます。今回で⑥回目です。残念ながら
今回のクール最終回です。湾岸親鸞講
座はこれからも続いています。

ちなみに、木越先生は小坊主の大学

時代のバスケット部顧問でした。授業も受
けていました。この講座は小坊主の大
学時代の授業雰囲気は何えると思いま
す。

ご不明な点がありましたら小坊主ま
でお問い合わせください。

待っています



お寺にはいつも誰かがいるように心
がけています。お寺の近くに來られた
時には、おまいりに來てください。お
茶でも飲みながら、近況をお聞かせく
ださい。

ご心配な場合は、事前にご連絡くだ
さい。
お待ちしております。

あとがき

まずは創刊号が完成したこと
に、ホッとしています。

これからどのように書き進め
ていけばいいのか、不安もありま
すが、自分の思いを伝えられる大
きな可能性に楽しみにしていま
す。

「夢は大きく、確実に一歩！」
をモットーにがんばりたいと思
います。

発行 真宗大谷派 本明寺
小坊主 本田 彰一(釋 彰一)
〒130-0012

東京都墨田区太平2-7-1
TEL 03-3623-1536
FAX 03-3623-1538